

北軽井沢に設置されたフクロウ用巣箱の内部をとらえた一枚です。巣箱には本来の主であるフクロウではなく、ムササビが営巣しており、暗い木箱の中で静かに身を寄せ合う姿が観察されています。この映像は、東京から遠隔操作によって巣箱内カメラを動かし撮影されたもので、人が現地に立ち入ることなく、野生動物の自然な行動を記録できている点も大きな特徴です。画面には柔らかな体毛に包まれたムササビの姿が写り、巣箱という限られた空間が、外界の厳しい環境から守られた安全な子育ての場となっていることが伝わってきます。

ムササビは年に夏と冬の二度出産し、それぞれ一度に一〜二匹の子を育てます。授乳期間が非常に長いという生態的特徴をもつため、夏に生まれた子がまだ巣立たないうちに次の出産を迎える場合があります。今回の観察ではまさにその珍しい例が確認され、夏生まれの子、母親、そして冬に生まれたばかりの子の三匹が同じ巣箱内で同居する貴重な状態が記録されました。成長段階の異なる個体が寄り添う様子は、ムササビの子育ての奥深さと生命の連続性を感じさせます。

これから季節の移ろいととも、子どもたちが少しずつ成長し、やがて夜の森へ滑空していく日を想像すると、観察を続ける楽しみはますます大きくなります。

(2026年3月上旬／北軽井沢／東京から遠隔観測)

